

第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



高校生の部 優秀賞 受賞作品

『昨日に笑われないように、明日もっと笑えるように』

東京都
学習院女子高等科
二年 伊藤 舞美

昨日に笑われないように、明日もつと笑えるように

学習院女子高等科 二年
伊藤 舞美 (いとう まみ)

「推し」。何度聞いても必ず心が弾む。「推薦」や「推奨」と聞くと格式張った感じを受けるが、「推し」は柔らかく聞こえる。「推し」という言葉が浸透してきたのはつい最近のことだと思う。元々の意味ではただ単におすすめるものだけを指してきたが、だんだんとおすすめる人、さらにはファンとして応援している人を指すように変化してきた。

私の「推し」の言葉は、「昨日に笑われないように、明日もつと笑えるように」だ。これは、「推し」が言った「推し」の言葉というのが正しい。この言葉のおかげで大きなことを成し遂げることができたというわけではない。しかし、確実に私を少しずつ前へと進ませ続けてくれる。

この言葉を聞いた時は幼かった。そのため、「私は毎日楽しく過ごしているから大丈夫だもん！」と陽気に受け取った。その後は他の似たような言葉と同じようにみなして、特に気にするということもなかった。

この言葉が最初に心の琴線に触れたのは、中学二年生の夏休みのことだった。休校期間が終わったと思ったらすぐに夏休みに入った。部活がほとんどなく、家にいることが多かった。毎週課題が配信される休校期間中と異なり、早寝早起きをして、気が向いたら勉強して、ドラマを観て、推しを観て、お母さんの美味しいご飯を食べる……の繰り返しだった。この年は特に私の「推し」を目にする機会が多く、「推し」について考える機会も多かった。そこで、以前はそこまで気に留めていなかった「推し」の「推し」の言葉をふと思い出すことがあった。自分の行動を振り返り、「このままでは、昨日に大笑いされて、明日はまた同じくらいしか笑えないだろう」と思った。そこで、ちよつと早起きしてみる、勉強の仕方を少し工夫してみる、家事を覚えてみる、など、「昨日に笑われないように」ほんのちよつと努力をした。すると、次の日、時間の使い方をよく考えるようになったり、勉強がちよつと楽しくなったり、家事がうまくなったりなど、「明日もつと笑える」ことが少しずつ増えてきた。夏休みの終わり頃、日々が充実していることを感じ、「推し」の言葉の良さを理解した。

さらに、私が「推し」の言葉には他の言葉と違う魅力があることに、だんだん気づいていった。まず、基準が「笑い」であることが魅力だ。もし「昨日の自分に負けないように、もつと明日勝てるように」であれば、基準は「勝ち負け」だ。しかし、昨日たくさん努力して、大きな成功を収めてしまった場合、昨日に負けないには大変な努力が必要で、その上勝つのは容易なことではないだろう。これを繰り返すと、どんどん自分を苦しめ、早々に疲れてしまう。一方で、「笑い」が基準であれば、「全力で頑張るぞ！」と思う必要はないので、努力をし始めやすく、かつ続けやすいと思う。

自分が得意だと思っていた分野でなかなか結果が出ず、さまざまな人に追い抜かれてしまうことがあった。自分では十分に努力をしていると思っていたので、とても苦しかった。ずっと足踏みをしている感じがした。この時、「推し」の言葉が思い出された。自分を見つめ直してみると、結果が出なくても努力を重ねることで「昨日に笑われない」日々を過ごすことはできていたと気づいた。そして、変に入っていた力が抜けて、楽になることができた。

このように「推し」の言葉においては、他人にどう思われるかではなく、自分がどう思うかが大切であることも魅力だ。もちろん、目標からの距離を知るには他人の指標が大切になってくる。しかし、他人に囚われすぎること自分の良さを見失ってしまうことがある。やる気を失い、目標達成から遠のいてしまうこともある。そこで、「昨日に笑われないうように」つまり、他人と比べてではなく昨日の自分と比べて少しでもよいところがあったかを基準にすれば、ありのままの自分を常に見ながら、着実に努力を積み重ねることができるのだ。

さらに「明日も」と笑えるように「に」によって、未来を見据えることができるのも魅力だ。「昨日に笑われないように」だけであれば、過去に拘泥するあまり、今日やるべきことをただ単調にこなすことで満足してしまうこともあるだろう。未来を見据えることで明日に明るい光がさし、さらに今日をよく生きることができると思う。

「推し」という言葉の意味は変動する。逆に、私の「推し」の言葉は変わらず私を支え続けるだろう。「昨日に笑われないように、明日も」と笑えるように「を」目標に、今日も私の一日が始まる。